

令和5年(2023年)度

「稲枝地区人権学習会」

「人権」(人がしあわせに生きること)について一緒に考えてみませんか。

日時 令和5年(2023年) 12月 2日(土)

場所 稲枝地区公民館 2F 大会議室

1 受付 9:00～

2 開会行事 9:30～

・彦根市人権尊重都市宣言唱和

・開会あいさつ

3 児童生徒作文発表 9:40～

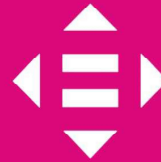
4 DVD視聴 10:10～

テーマ

今こそ支えあって～人がしあわせに生きること～



10 人や国の不平等をなくそう



ゴール10 各国内および各国間の不平等を軽減する
Goal 10. Reduce inequality within and among countries

DVD

今こそ支えあって～コロナ禍でもがんばる地域からの発信～

－人権活動についてのインタビュー集－

●人権活動についてのインタビュー集から「人がしあわせに生きること」について考えます。

CHAPTER① 人権ネットワーク八幡～部落差別からあらゆる人権課題へ～

近江八幡市で地域での活動を活発に行い、地域の製靴産業などから人権研修のメニューなどをつくりあげています。部落差別の歴史やこれまでの活動から学びを深めましょう。

CHAPTER② かんちゃんの小さな家から～子どもたちに居場所と絆を～

近江八幡市安土町で学校に馴染めない、自分が出せない子ども・若者たちにとっての居場所となる取組を進めています。子どもたちの置かれている状況について考えましょう。

CHAPTER③ 多機能型事業所エルディ～障がい者との共生～

湖南市でA型・B型の就労継続支援事業を通じて、障害のある方々との共生や支援の在り方について伺いました。就労支援の在り方、生活との密接な状況について考えましょう。

CHAPTER④ サンタナ学園～コロナ禍でも負けない学びの保障を～

愛知郡愛荘町にあるブラジル人学校・サンタナ学園。ここでは日本の学校に馴染めなかったなどの理由から通学するようになった児童生徒もいます。子どもたちが置かれている状況や課題について考えましょう。

●人権問題を自分のこととして捉え、お互いを尊重することの大切さを

再認識する一助となればと考えます。

4 隣同士で意見交換 11:20～

アンケート記入 11:30～

5 閉会行事 11:35～

・閉会あいさつ



彦根市人権尊重都市宣言

人権とは、人間が幸せに生きていく権利で、すべての人が生まれながらにもっている基本的な権利です。

わたくしたち彦根市民は、

日本国憲法の理念にのっとり、お互いに相手の立場を考え、広く豊かな人間関係をつくり、差別のない明るく住みよい社会を築くために、市民一人ひとりが、正しい人権意識の高揚に努め、市民憲章の実践を誓い、ここに彦根市を「人権尊重都市」とすることを宣言する。

1 話してみましよう。近頃のわたし

- ①今日の元気度（何%）
- ②近頃おいしかった食べ物
- ③近頃気になるニュース
- ④近頃ほめられたこと
- ⑤近頃言われた「ありがとう」

-
- 人からほめられたり「ありがとう」と言われたとき、どんな気持ちになりましたか。
 - 近頃あなたが言った「ありがとう」はどんなことでしたか。
-

2 「田」の中にある文字を考えよう。

「田」「口」「日」「一」・・・

3 [魚] の絵を描こう。


●DVD視聴「今こそ支えあって」 10:25-11:17
～コロナ禍でもがんばる地域からの発信～ - 人権活動についてのインタビュー集 -

- 1 **人権ネットワーク八幡**
 - 部落差別からあらゆる人権課題へ(近江八幡市)
製靴産業から人権研修メニュー
部落差別の歴史、これまでの取組から学びを深めましょう。
- 2 **かんちゃんの小さな家**
 - 子どもたちに居場所と絆を(近江八幡市安土町)
自分が出せない子ども・若者の居場所づくりの取組から考えましょう。
- 3 **多機能型事業所エルディ**
 - 障がい者との共生(湖南市)
就労継続支援事業(障害のある方々との共生)の取組から考えましょう。
- 4 **サンタナ学園**
 - コロナ禍でも負けない学びの保障を(愛知県愛荘町)
ブラジル人学校の子どもたちが置かれている状況・課題について考えましょう。



人権学習講座
「今こそ支えあって
～人がしあわせに生きること～」

●開会	9:30
●彦根市人権尊重都市宣言唱和	
●開会あいさつ	
●児童生徒作文発表	9:40
●DVD視聴「今こそ支えあって」	10:10
～コロナ禍でもがんばる地域からの発信～	
- 人権活動についてのインタビュー集 -	
●隣同士で意見交換	11:20
●アンケート記入	11:30
●閉会あいさつ	11:35



令和5年度 稲枝地区人権学習会

「今こそ支えあって」 -人がしあわせに生きること-

コロナ禍でもがんばる地域からの発信 -人権活動についてのインタビュー集-

彦根市稲枝地区公民館

■ 令和5年(2023年)12月2日(土)9:30-11:40



チャプター①

人権ネットワーク八幡

～部落差別からあらゆる人権課題へ～

近江八幡市において、地域での活動を活発に行っておられます。ここでは地域の製靴産業などから人権研修のメニューなどをつくりあげています。部落差別の歴史やこれまでの活動から学びを深めていきましょう。

チャプター②

かんちゃんのおきな家

～子どもたちに居場所と絆を～

近江八幡市安土町で学校になじめない、自分が出せない子ども・若者たちにとっての居場所となる取組を進めておられます。子どもたちの置かれている状況について伺っていきましょう。

チャプター③

多様な就業形態 エルディ

～障がい者との共生～

湖南市でA型・B型の就労継続支援事業を通じて、障がいのある方々との共生や支援のあり方について伺いました。就労支援のあり方、生活との密接な状況などについて考える機会としましょう。

チャプター④

サンタナ学園

～コロナ禍でも負けない学びの保障を～

愛知県愛荘町にあるブラジル人学校、サンタナ学園。ここでは日本の学校になじめなかったなどの理由から通学するようになった児童生徒もいます。この子どもたちが置かれている状況や課題について伺っていきましょう。

今こそ支えあって
コロナ禍でもがんばる地域からの発信

今こそ支えあって

～コロナ禍でもがんばる地域からの発信～
- 人権活動についてのインタビュー集 -



公益財団法人 滋賀県人権センター

発行・著作
公益財団法人 滋賀県人権センター
〒520-0801 滋賀県大津市ICおおの道 4 丁目 1-14
TEL:077-522-2243 FAX:077-522-0289
https://www.shiga-jinken.or.jp
制作 株式会社VIEW

2021年制作
複製不可 無許可レンタル禁止 MPEG-2 Made in Japan
片面1層 COLOR NTSC/日本市場向 16:9

DVD VIDEO 公益財団法人 滋賀県人権センター

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

人に教えることで自分も成長する

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

「人に教えることで自分も成長する」

Learning in teaching 「人に教えることで学ぶ」

羽根拓也さん1966年12/20生(アクティブラーニング社1997年)ハーバード大学から優秀指導証書(1994年)

「誰もが安心して暮らせる社会に向けて～」



年齢、出自、障害の有無、国籍・文化的背景、性的指向・性自認等にかかわらず、すべての人の人権が尊重され、共に支え合い、共に生きる「共生社会」を誰もが願っています。

新型コロナウイルス感染症が広がりを見せる中、罹患者や家族、濃厚接触者、医療従事者、福祉施設職員、エッセンシャルワーカーといった人々への排除や差別などの人権侵害がたやすく発生する社会の現実を私たちは目のあたりにしました。そのような中であっても、新型コロナウイルスに感染した人や医療従事者などへの差別や偏見をなくし、安心して暮らせる社会をめざそうとする「シトラスリボンプロジェクト」等、お互いを励まし合い、支え合おうとする取組が全国で広がり、多くの人々が共に歩む姿勢を示す動きが見られました。

差別や偏見を見過ごさず、誰もが安心して暮らせる社会をつくっていくのは私たち一人ひとりです。また、そうした社会づくりに向け、主体的に行動できる子どもたちを育てていくことが教育の役割・使命でもあります。(滋賀県教育委員会人権政策課2022リーフレットから)



大学時代の親友3人が織り成す感動ドラマ。超難関理系大学ICEに通うランチョー、ファルハーン、ラジューのトリオが巻き起こす珍騒動と、行方不明になったランチョーを探す10年後の彼らの姿を同時進行で描く。インドで過熱する学歴競争問題に一石を投じ、真に“今を生きる”素晴らしさを問いかける。170分 (2009年)



インドで迷子になったパキスタンの子ども(シャヒーダー)をインド人のバジュランギおじさんが、パキスタンにいる母親のもとにつれて帰ることができるのか。宗教の違いを知ることできる。インドは文化の多様性がある一方で、多くの社会問題を抱える国。インド映画はそうした様々な側面を知ることができる。159分 (2018年)



納棺師—それは、悲しいはずのお別れを、やさしい愛情で満たしてくれる人。人は誰でもいつか、おくりびと、おくりびと、すべての人に普遍的なテーマを通して、夫婦の愛、わが子への無償の愛、父や母、家族への思い、友情や仕事への誇りなどを描く。131分 (2008年)



瀬川丑松は、自分が被差別部落出身ということを隠して、地元を離れ、小学校の教員として奉職する。彼はその出自を隠し通すよう父からの強い戒めを受けていた。彼は生徒に慕われるよい教師であったが、出自を隠していることに悩み、差別の現状を目の当たりにして心を乱しつつも、下宿の先の士族出身の女性・志保との恋に心を焦がしていた。同僚教師銀之助の支えはあったが、学校では丑松の出自についての疑念も抱かれ始める。苦しみの中、丑松は被差別部落出身の思想家・猪子連太郎に傾倒していく。丑松は「人間はみな等しく尊厳をもつものだ」という猪子の言葉に強い感動を覚えるが、猪子は演説後、政敵の放った暴漢に襲われる。この事件がきっかけとなり、丑松はある決意を胸に教え子たちが待つ最後の教壇に立とうとする。119分 (2022年)